

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツリテラシー I (Sports Literacy I)		授業コード	E001201
担当教員名	鈴木 照夫、竹田 隆行		科目ナンバリングコード	E10105
配当学年	1	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	他の科目を履修していなくても、この科目だけで理解できる内容になっています。			
受講心得	スポーツに対しては、各人がそれぞれのこだわり、考え方を持っています。こだわりは必要ですが、そこから新しい考えは生まれてきません。ゼロベースで物事を考える重要性を学んでもらいたいです。最初の講義に、受講ルールを説明します。			
教科書				
参考文献及び指定図書	講義の進行に従って、適宜紹介します。			
関連科目	スポーツビジネス関連科目、NSCA関連科目			

授業の目的	本講義は、スポーツビジネスコースのカリキュラム概要とコース科目の関連について学びます。コースの導入科目としての役割を果たしています。また、スポーツを様々な視点で捉えるための基礎的知識を身につけます。
授業の概要	スポーツビジネスコースの概要とコース科目の関連性を学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 講義内容、講義の進め方、受講上の注意、参考文献、到達目標、評価方法等について説明します。	
第2週：コースの趣旨・概要、履修モデルの説明 コースの概要(取得できる資格、スポーツビジネス、NSCA)と履修モデルについて説明します。	ノート整理
第3週：スポーツの歴史について スポーツの起源について学びます。体育とスポーツの違いを説明します。	ノート整理
第4週：スポーツマンシップについて① 人間力とスポーツマンシップの関係について説明します。	ノート整理 事例について考える
第5週：スポーツマンシップについて② スポーツマンはお金を着服しない。体罰を行わない。	ノート整理 事例について考える
第6週：オリンピックの歴史とアマチュアリズムについて① オリンピックの歴史について学びます。	ノート整理 事例について考える
第7週：オリンピックの歴史とアマチュアリズムについて② オリンピックの歴史とアマチュアリズムの関係について学びます。	ノート整理 事例について考える
第8週：野球の歴史 野球の歴史と、プロ野球(NPB)、メジャーリーグベースボール(MLB)について学びます。	ノート整理 事例について考える
第9週：サッカー、ラグビーの歴史 サッカーとラグビーの歴史とヨーロッパプロサッカーリーグとJリーグについて学びます。	ノート整理 事例について考える
第10週：アメリカ4大プロスポーツについて① MLB(ベースボール)、NBA(バスケットボール)について学びます。	ノート整理 事例について考える

第11週：アメリカ4大プロスポーツについて② NFL(アメリカンフットボール)、NHL(アイスホッケー)について学びます。		ノート整理 事例について考える
第12週：主なスポーツ競技のルールとメディアについて① スポーツはメディアとともに発展してきました。その反面メディアによってルールが変更されてきました。その事例を紹介します。		ノート整理 事例について考える
第13週：主なスポーツ競技のルールとメディアについて② スポーツはメディアとともに発展してきました。スポーツがメディアに取り上げられるメリット、デメリットを紹介します。		ノート整理 事例について考える
第14週：スポーツトレーナーについて(NSCA) NSCAの資格(CPT、CSCS)について説明します。トレーナーの役割について説明します。		ノート整理 事例について考える
第15週：高齢社会とスポーツ(福祉) 高齢社会におけるスポーツが果たす役割について説明します。		ノート整理 事例について考える
第16週：期末試験 第1週から第15週までの内容について試験を実施します。		ノート整理
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	これまで経験してきたスポーツ観にとらわれずに、新しい考え方を生み出そうとしている。
【知識・理解】	スポーツを様々な視点で捉えるための基礎的知識を身につけている。
【技能・表現・コミュニケーション】	スポーツのもつ意義について、自分の考えを述べることができる。
【思考・判断・創造】	スポーツ界の課題について、論理的に考えることができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点			
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	